

# BOATMEN

NPO法人 石川県小型船安全協会会報「ボートメン」 26号 (2014年12月発行号) Vol. **26**

トピックス …石川県との災害時協定、小松梯川の係留場の整備、ざぶん賞2014表彰式 など  
活動報告 ……マリンレジャー安全推進旬間出動式、夏のイベント など  
行政から ……平成26年度事故の状況、金沢・七尾海上保安部着任のご挨拶

ざぶん賞受賞作品 ©ボートマンズエッセイ・有明海の恵み



## 石川県との災害時協定

### 3月起案、9月役員会にて協定内容の確認

自然災害が増加する中、当会は、孤立集落の海からの物資輸送や救援にも率先して協力すべく、石川県と「災害時等における海上緊急輸送業務に関する協定書」の締結について検討と関係機関と協議を続けてきました。

すでに漁業団体様が同様な締結を行っており、プレジャーの組織として県内では先駆けて行うものです。

9月に開催した役員会で、石川県危機対策監室 危機対策課長の川口正人氏にご出席いただき、説明を受け、内容の承認を得ました。

### 協定の主な内容

- ・災害時に石川県が海上緊急輸送が必要と判断された場合に、石川県から協力要請を受け、当会は可能な限り協力すること。
- ・主な業務は被災者や滞留者、生活必需品、応急対策に必要な人員や機材などの輸送を行うこと。
- ・従事者が業務中に災害を受けた場合、石川県の損害補償に関する条例が準用され、補償されること。

## 小松梯川、左岸の係留施設が完成

### 平成27年1月10日完成予定

小松梯川の暫定係留施設についての協議会が3月と9月に実施。前年に着工した護岸工事が進み、計画の約半分に当たる左岸部分の工事がほぼ完了し1月上旬に使用可能となる予定です。

完成後、小松マリンクラブに所属する船舶約70隻が同施設に係留されます。

今後は右岸部分の工事が開始される予定です。



### 拡幅護岸工事中の梯川



## ざぶん賞2014(第13回)表彰式開催

### 11月22日 金沢で表彰セレモニー開催

当会が共催しているざぶん賞の表彰式が、金沢市のエクセル東急ホテルにて開催されました。今回は全国の小中学生から過去最多の約8,800作品の応募が、また石川県からも多くの作品が集まりました。今年は全国表彰のほか、中部地区ブロック表彰式として、石川県をはじめ各地で選ばれた皆様もお招きしました。

式では、会長の月尾嘉男氏(東京大学名誉教授)があいさつに続き、実行委員で陶芸家の林 香君さんが、この事業と関連付けて開催している事業(地元の栃木県の子供達がグループで童話に絵を施す事業)の講演がありました。

続いて来賓を代表し、金沢市長の山野之義氏および、顧問の馳 浩氏が歓迎のあいさつ。その後各入選者に順に賞が授与されました。石川県内の入選者には、石川県知事賞、石川県教育委員会賞、金沢市長賞、うみまる賞(金沢、七尾両海上保安部長表彰)、ソロプチミスト賞がそれぞれ渡されました。



## 活動報告

## 総会開催。26年度の計画が承認

### 3月31日 金沢市で

総会は、会員、および来賓の皆様、約80名が出席され、金沢市で開催されました。

議案審議では、引き続き安全指導、パトロールの活動強化、ライフジャケットの着用徹底を県内各地で行うこと、係留保管場所整備、海洋体験推進事業、文化創造事業などの計画が承認されました。

また、今回の役員改選では、長年会長として当会の発展に多大な貢献をいただいた高嶋哲氏が、全国事業として拡大成長を続けている、ざぶん賞事業の財団の理事長職に専念頂くため、顧問に就任され、新たな会長に、理事会の決議をもって岡川純一郎氏が就任しました。

節目となる今回の総会では、来賓として金沢市長の山野之義氏や、これまで各地でご指導いただいた県議会議員の皆様をお招きし、顧問で出席いただいた、衆議院議員馳浩氏、北村茂男氏および佐々木紀



氏ら、皆様からそれぞれご挨拶をいただきました。

## 理事の改選

### ●新任理事

斎藤 外二 (加賀マリンクラブ)  
桜井 浩二 (七尾マリン協会)  
白木 眞一 (加賀マリンクラブ)  
砂長谷 均 (大協マリンクラブ)  
辻口 正衛 (羽咋マリンクラブ)  
森田 昭男 (橋立マリンクラブ)

### ●退任理事

高嶋 哲  
(顧問就任 一財ざぶん環境・文化プロジェクト理事長)  
石村 雄正 (加賀マリンクラブ)  
小倉 恒久 (加賀マリンクラブ)  
新宅 清治 (加賀マリンクラブ)  
中村 幸弘 (中島マリン協会)  
山崎 清弘 (マリンフィッシングクラブ)

### ●各支部長

能登支部長 中越 政秀、羽咋支部長 辻口 正衛  
金沢支部長 南野 吉宏、加南支部長 吉田 憲孝

## 海上指導員講習会を開催

各地で海上安全指導員の講習会を開催しました。

現在、海上安全指導員は43名、およびパトロール艇が委嘱され、海上で活動しています。

## マリンレジャー安全推進週間出動式

### 4月26日 金沢港で(金沢支部)

金沢支部で、大型連休前のマリンレジャー安全推進週間の出動式を、金沢海上保安部の協力のもと行いました。

会員18名が参加し、金沢港護岸周辺と、港内のパトロールを行い、レジャー活動者に安全の指導を行いました。



## 各地で海難訓練、安全講習会を実施

### 6月1日 小松安宅沖

加南支部(小松マリンクラブ、手取会)と小松美川水難救済所の合同海難訓練を実施しました。会員約50名が参加。地域の警察や消防らとの連携し、陸上に設置した本部の指示のもと、海上で迅速な行方不明者搜索、海中転落者救助、発炎筒点火等の訓練を実施しました。

### 6月21日 羽咋滝港

滝港にて羽咋支部、羽咋マリンクラブは、羽咋救難所との合同のパトロール、および海難訓練に参加しました。金沢海上保安部 巡視艇わしかぜも参加し、海上保安部員の指導のもと実施しました。



### 4月5日 穴水湾、8月3日 珠洲沖、 9月7日 輪島沖、11月3日 七尾湾

七尾、珠洲、輪島、穴水地区でもそれぞれ訓練を実施しました。七尾では20名、輪島は参加18名、珠洲は31名、穴水は28名がそれぞれ参加しました。



その他、安全講習会や救命講習会、また遠方航海時においての最寄りの港への避難の訓練など、各地で会員クラブが主催し、行われました。

## 不明者を搜索

### 11月28日 白山市の沖合で(加南支部)

小松マリンクラブ所属の会員が寄港しないとの連絡を受け、同クラブの救助部員が搜索を開始。当日の天候や潮の流れから白山市沖合方面を中心に搜索したところ、沖合2km付近で漂流船を発見し曳航しました。船長は船内で病死されました。

## 夏のイベントを各地で開催

### 港フェスタ金沢 体験クルージング

### 7月19日 金沢港

金沢港で開催の港フェスタ2014の事業の一環で、金沢支部が体験クルージングを行いました。ボート10隻、会員35名が協力。

今年も親子をはじめ多くの市民が来場。約300名の皆様に順にお乗せし、港内から内灘沖までクルーズしました。



## ボート天国・マリンスポーツチャレンジデー

7月21日 七尾港

恒例となった七尾港の体験航海「ボート天国」が開催されました。多くのご家族や子供たちがボートを体験しました。七尾マリン協会、雌島クラブ、七尾セーリング協会が協力しました。

## 小松・美川親子ボートフィッシング大会は荒天で中止

今年も小松、美川で、親子を対象としたボートフィッシング大会を開催を計画していましたが、当日の荒天で中止いたしました。

## トライアスロン珠洲大会、シーカヤック能登島里山フェスティバルに協力

8月24、25日 珠洲 鉢ヶ崎

トライアスロン珠洲大会に、今年も長浜マリン協会の皆様が、スイム競技の海上安全において協力いたしました。メンバー20人（隻）がボートを提供し、各配置にて監視しました。

## 9月27、28日 能登島で開催

能登島里海シーカヤックフェスティバル。今年で5回目。全国から多くの愛好家が参加しました。

当会能登支部が実行委員として運営全般に関わると共に、走行を監視するボートを提供し、安全な海洋レジャーの保持に協力しました。

## クリーンビーチ、森の植樹や草刈りに参加

5月26日 金沢、6月15日 加賀、6月29日 小松

金沢、および小松では今年もクリーンビーチに協力しました。金沢では60名が金石、内灘地区で、小松は約85名が安宅海岸で参加しました。

大協マリンクラブは6月15日に山中県民の森で草刈りを実施。15名が参加しました。



## 海面利用協議会に協力

11月14日

県水産課の石川県海面利用者協議会に、当会から遊漁者代表委員として濱田理事が参加いたしました。会議では、能登地区でのアオリイカ釣りについて小型のイカ（10センチ以下）の放流の徹底などを確認しました。



# スナップ

各地で  
安全訓練、  
講習会を実施



金沢港 港フェスタで一般市民を対象に体験航海を行いました。



総会を金沢市で開催。



ざぶん賞  
全国表彰式開催  
(金沢)



**編集後記** 金沢港は昭和38年の豪雪で閉ざされた陸路の対策としてできたと言われます。しかし実際は、大正時代、地元の有識者が貿易港を金沢にと国に要望し、昭和初期に築港が閣議決定。戦時中の計画凍結を経てようやく開港したのです。その港ができるころ、北陸新幹線の建設を求める運動が起きました。全国に新幹線が必要と訴えた田中角栄首相は、冬、一日中雪かきをして生きる地元人たちの苦勞を間近に見て、なんとかしなければと思ったそうです。それから50年、国鉄民営化、道路整備、除雪などのサービスや技術も進化し、価値観も大きく変化しました。そして金沢港と同じように長い年月をかけてようやく新幹線がやってきます。「かがやき」の陰には地元の先人たちの尽力があったことを忘れずにいたいものです。